

序

栄養管理ができる医師になろう！

近年、医療における栄養管理は重要性を増している。栄養サポートチーム（NST: Nutrition Support Team）の普及により、適切な栄養管理が及ぼすさまざまな効果が明らかとなり、病院機能評価や診療報酬加算など栄養管理への社会的評価も高まり、医師はNSTのリーダーとしての役割が期待されている。聖隸浜松病院がNSTを立ち上げた2000年には、全国で10施設未満だったNSTは現在、約1,600施設で稼働し、さらに増加中である。しかし、現状の卒前・卒後の栄養管理教育システムは不十分で、医師からは、栄養管理を「自信がないままに行っている」「何となくやっているが不安」という声が多い。

本書は当院NST11年間の経験をもとに、現場の医師の悩みや疑問に応えるべく、当院内外のエキスパートにより執筆された。基礎編では栄養管理の基本と栄養計画の立て方を、病態編では代表的疾患の栄養病態生理・栄養管理の実際・栄養（投与経路）の切り替えのポイントについて、それぞれ初歩からわかりやすく述べる。具体的な栄養処方例を豊富に掲載し、現場ですぐに使える実践的内容である。症例編では、実例をもとに栄養管理の進め方を具体的に紹介している。付録では、主な経腸栄養剤や栄養管理に役立つ情報源をまとめた。これら立体的構成により、栄養療法の理論と実践が無理なく習得できるように工夫されている。

現代医療は、高齢・合併症や基礎疾患を多く抱えた患者さんを対象とすることが多く、手術・化学/放射線療法・薬物療法・血液浄化療法・リハビリテーションなど、多くの治療法を駆使して多職種で対処することを余儀なくされている。また、安全で良質な医療、医療コストも考慮した医療が求められる。「全ての疾患に効く治療法はないが、栄養療法は全ての治療法の基礎をなすものであり、いかなる医療も適切な栄養サポートなしに成功できない」とよく言われるが、決して過言ではない。末期がんの緩和ケアにおいてすら、苦痛を最小限にして「その人らしい人生の最後を全うする」ために栄養サポートが必要なことが明らかになってきた。

栄養管理は、褥瘡・感染対策・緩和など他チーム医療と連携すると相乗的効果を発揮する。栄養管理の意外な効用は、多職種連携により、部門間の壁を超えて院内コミュニケーションが改善し、患者さんとともに「病院が元気になる」ことである。本書により1人でも多くの医師が栄養管理をマスターし、この「風通しの良さ」を実感していただければ、筆者らの喜びである。

2011年2月吉日 聖隸浜松病院医局にて

聖隸浜松病院腎センター長・NST チェアマン
磯崎泰介